

# 麦わら細工、震災避難者が講師役

札幌のライラックまつり、NPOが指導

東日本大震災の影響で道内に避難した女性3人が、札幌・大通公園で22日に始まる「さっぽろライラックまつり」で麦わら細工づくりの講師を務める。避難生活で仕事や周囲とのつながりが途切れがちな女性を応援しようと、支援者らが準備を進めた初めての試み。これからの生活を支える一つの「手がかり」になればとの思いもこもる。

「まつり」での麦わら細工づくり体験は、道産小麦の麦わら細工を広めたいと活動するNPO法人・札幌村文化センター（土肥信子代表理事）が4年前から続けている。札

## 「心配事 離れて過ごせる」

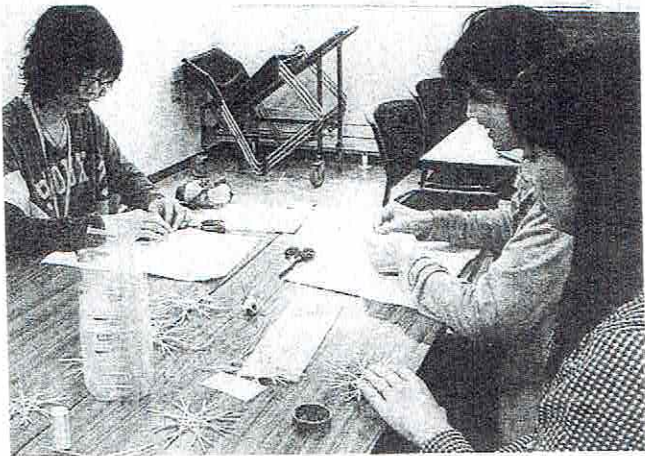
幌には今も1500人を超す避難者がおり、その苦しさを聞いた土肥さんが「打ち込む仕事や居場所があれば気持ちも安定するのでは」と、避難者支援団体「うけいれ隊」と協力。募集に応じた避難者に、麦わら細工の講師としての手ほどきをしてきた。

応募した一人、神保美由紀さん(47)は、放射能の影響を考え5歳の子と東京都内から白石区に移住してきた。仕事も、東京の親のことも気がかりだが、細工づくりで「心配事から離れた時間を過ごせます」。

福島県から手稲区の実家に一歳の子と2人で避難している鈴木恵美さん(35)は「仕事から少し離れていたからありがたい」と話す。活動を通して避難者向けの情報を得る機会も増えたといい、講師役を務めることで「少しでも貢献ができれば」と話している。

麦わら細工体験は、22、26日の午前11時～午後4時、大通西5丁目のブースで。

(永野真奈)



麦わらで「雪の結晶」をつくる練習をする女性たち＝札幌